

特集「経営工学を深める大学・経営工学を 活用する企業」を企画して

後藤 正 幸

今回の特集では、日本経営工学会に所属する大学人・企業人の方々に、実際に活動され、活躍されている経営工学の現場の様子についてご紹介いただく企画を組みたい、という話になりました。

日本経営工学会は、昭和 25 (1950) 年 6 月に発足して以来、着実に日本の経営工学分野を発展させ、リードしてきました。その間、日本が経験した高度成長期は、まさに日本のものづくりが牽引した発展でもありました。日本製品の品質の高さが世界中から羨望の眼差しで見られていた時代、IE や品質管理、生産管理といった管理技術はまさに日本のお家芸でした。経営工学は、学問分野としてそれら管理技術の発展に長らく寄与してきたといえるでしょう。日本のメーカーが安価な人件費を求め、海外へと工場の移転が進んだ現在においても、これら管理技術の重要性は失われていません。

本会発足より 70 年近くが経つ現在においても、本会所属の多くの研究者や実務家が経営工学分野で活躍し、様々な成果を生み出しています。本特集で語られる熱い活動の様子から、経営工学分野における魅力的な最先端や、教育、実務の現場を垣間見ていただければ幸いです。

まず、主に次世代を担う大学生や大学院生に教育を行いながら、様々な研究領域で成果を生み出している経営工学分野の大学教員の皆様に、教育および研究活動の様子をご紹介します。さらに、経営工学を実務の世界で活用して様々な効果を生み出す現場である企業の皆様からも、その取り組みについてご寄稿いただきました。

大学教員の皆様からお寄せいただいた記事は、お名前五十音順で紹介させていただきます。

最初の石垣 綾先生 (東京理科大) に続き、稲田周平先生 (慶応義塾大)、伊呂原 隆先生 (上智大)、倉田 久先生 (筑波大)、小出 武先生 (甲南大)、佐藤公俊先生 (神奈川大)、孫 晶先生 (名古屋工大)、高橋勝彦先生、森川克己先生、長沢敬祐先生 (以上、広島大)、谷水義隆先生 (早稲田大)、堀川三好先生 (岩手県立大)、松本俊之先生 (青山学院大) と、錚々たるメンバーから研究室紹介としてご寄稿いただきました。これらのご寄稿を拝読しますと、経営工学分野が産業界と深く関わった実学であり、実社会で役立つ学問であることが再認識されます。

さらに産業界からは、和泉高雄様 (株式会社日本能率協会コンサルティング)、内田吉宣様、小倉孝裕様 (以上、日立製作所)、嶋田佳明様 (株式会社 NTT データ数理システム) よりご寄稿いただき、いずれもまさに実学として経営工学が活用される様子を垣間見ることができる素晴らしい記事です。

以上、実学に深く根付いた経営工学が、今もなおその輝きを失わずに社会で必要とされている様子が改めて実感できる特集となりました。

本特集が、本会会員の所属する大学や企業の様々な取り組みを伝えるためのよいコミュニケーションツールとなり、さらには新たな産学連携や日本経営工学会内外のネットワークのきっかけにもなればたいへん幸いです。

最後になりますが、執筆者の皆様、本特集に際しご協力いただいた編集委員ならびに事務局各位に深くお礼申し上げます。
(早稲田大学)